

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	羽島市正木町新井4丁目945番地		
自己評価作成日	H24.11.28	評価結果市町村受理日	H25.2.1

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400465-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	H24.12.11		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りには田畑が多く、散歩するのに大変よく田畑仕事の方々とお話を楽しむ事が出来る。クリーン作戦も行う事で、自分たちも役立っていると思う事もでき、今では利用者様の方から行うと声がかかる。
ボランティアの方も来られ歌、手品と楽しむ時間も多くなった。
オムツの運動もでき、有り難う運動も普通に職員が出来るようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年を過ぎたホームで、日頃の取り組みが実を結びその存在が地域で定着してきている。散歩途中で近隣の方との雑談や、クリーン作戦と名付けてゴミ拾いを行うなど、積極的に関わりを持ち交流を図っている。さらにこのホームでは家族の声を大切にしており、訪問時に利用者の様子を伝え要望を尋ねたり、ホーム便りに家族アンケートを添え声を聞いている。また家族の意見はケアプランにも反映されている。見直しの時期にはケアマネージャーが個別に家族と話し合い、利用者の思いに寄り添い作り上げている。“安心して心ゆたかに過ごしてもらいたい”と願う管理者の熱意に全職員が共感し信頼を寄せており、志しを一つに職員のチームワークも良い。軒下には皆で作った干し柿が吊るされ、利用者職員でその食べ時を心待ちにしている、温かいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の壁に理念を掲げていつでも職員が読み共有して実践に繋がっている。	安心して心ゆたかに過ごしてもらいたいとの思いから「安心感」という理念を作り上げ、職員の見える所に掲げ全員で共有を図っている。また職員のミーティングでは、理念を踏まえながら日頃のケアを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に野菜をたくさん頂いたり、花火やお祭りなどの交流も楽しく行っている。また、散歩道の清掃活動クリーン作戦をすることで近所の方が有り難うと声をかけて下さり利用者様も喜んで応じられている。町内の回覧板も出来るようになり町内の催し事に声をかけて下さり参加することもある。	地元の花火大会では近所の方がホームの庭に来て見学されたり、地域の祭りで町内子供会の神輿が立ち寄るなど、ホームの存在が定着してきている。また小学生の訪問や中学生の職場体験も受け入れ、認知症の理解について学びの役を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生の友愛訪問や、中学生の職場体験を受け入れている。 また、医療短大看護科の学生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、包括支援センターの職員の他、利用者様の御家族の出席が多くなり、そこでの声をサービスやケアプランに活かしている。	最近運営推進会議への家族の出席が増えている。ホームの取り組みや利用者の状況、さらには福祉制度等を知ってもらう機会も多くなり、家族から意見を言ってもらい運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の生活をみて下さっている。	市役所に出向く折には、感染症予防対策等の気にかかる事柄を相談している。また生活保護を受給している利用者には月に一度市役所の面会があり、連携を図りながら安定した生活を支えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の運動を今まで行ってきましたが、1名危険防止の為医師の指示で行う事になった。 玄関の施錠はなく自由に庭に出られるが見守りで日光浴をされる。	身体拘束は行わない方針を掲げているが、やむを得ない場合は家族の同意を取り、経過を記録し、拘束終了に向け関係者で検討を重ねている。玄関は日中開錠しており、台所に鏡を設置し調理しながらも利用者の様子が把握できるよう工夫し注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けて勉強会を行っている。 事故、けがが発生したら、すぐ家族に連絡し説明をする事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修も受けました。 職員全員で勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分の説明と入所前の見学をしてもらっています。入院後での退所はありますがその際もご家族に丁寧に説明し、退所後の相談にのり同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々が運営推進会議に多く出席して下さるようになり、意見要望を伺う機会が多く、運営に反映している。 必要な場合は医師、訪看も交えて話し合い運営に反映させている。	家族の訪問が多く、職員から日頃の様子を伝えるときにもそれとなく話を聞いている。月に一度ホーム便りを出す時にはアンケートを添え、家族の声を大切にしたい思いを伝え、意見、要望を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングに出席し、職員、ケアマネの意見を反映させるようにしている。	管理者は職員一人ひとりの気づきや行動を大きな力として運営に反映しており、また職員も管理者の熱意に共感し信頼を寄せている。職員同士の関係も良く、互いを認め合い何でも話せる雰囲気を作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を十分把握して各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には出来る限り参加している。 参加者は研修後、勉強会で発表し全員の物にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、研修を通して行い良い事はホームでも取り入れる様にしている。 市内でのグループホーム研修プランも他のホームの方と計画する事もある。 25年2月ジイ、うらら様と計画を立てる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、家、病院にケアマネージャーと共に訪問、面談し家族、本人の思いを伺っている。 ホームの見学も入所前にして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、居宅のケアマネージャー、ホームのケアマネージャー、主任など関係者で集まり必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、自分達の親、人生の先輩である事を念頭に置き接する言葉に気を付け暖かい関係を保って、良い一生だったと思って暮らしていただくよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、生活便りや写真を送って生活ぶりを知ってもらっている。 家族の面会、外食、外泊などで家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みの人の面会をお願いしたり、ホームでお茶して頂いたり代表者が外出援助している。 姉妹で外出されることもある。	利用前のアセスメントでそれぞれの生活背景を詳しく聞き取り、入居後に知り得た情報を追加記入し、職員にもその旨伝えている。知人の来訪時にはお茶を出してもてなすなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う人たちが話ができる様座るところも考えている。 仲良く散歩をクリーン作戦をされる時も楽しく出来る様考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療が必要になり退所される場合がありますが、電話で様子を伺ったり面会でできれば、面会し元気付けている。 亡くなった後も家族の方が時々ホームへ来られ利用者様と話をされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩時、入浴時、お茶の時、要望を聞いてミーティング又は、その都度職員で話し合っ出来る限りの希望を叶え、そえる様している。	利用者の思いや意向を確認するための工夫として、夕食後から就寝前の時間帯に「お茶の時間」を用意している。1対1の会話から思いを聞き取り、その後申し送りやミーティング時に職員間で内容を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族と面談し生活歴やサービス利用を把握し、サービスに活かしている。 又、居宅のケアマネージャーからも出来るだけ情報提供して頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の考え意見、ミーティングでの意見を聞いてケアマネージャーがサービス内容を作成しそのサービス内容に添った介護をしている。	家族の面会時にはその利用者の個人ファイルを開覧してもらい、日々の暮らしぶりや職員の関わり方の確認をしてもらっている。家族が意見や要望を言いやすく、また職員も家族に伝えやすい環境を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、個人ノートを見てその日の状況を確認し、確実に知り伝える事を守っている。 ケアマネも目を通しケアプランにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートは必ず目を通しその時々生まれるニーズに対応している。 クリーン作戦も2年目に入り自分達も貢献できる力を支援し、喜びになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑の中のホームなので、のんびり散歩もできる散歩道のクリーン作戦も自主的に行っており自分達の力を発揮している。快く受けて下さる店でコーヒータイムも外食も行う事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にして医療機関は選んでいる。 今までの掛かり付けで診察して頂くことも出来る様にしている。入院医療機関も連絡できるようにしている。	協力医以外にも専門医の往診体制があり、複数の医療機関との関係が築かれている。かかりつけ医や地元の総合病院への受診に職員が付き添うこともあり、医療機関との連携を積極的に取るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月2回受けて健康チェック指導も受けている。 職員の中に准看護師もおり、看護職との連携はとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解をとって医師、看護師の方より個人情報も出来るようにして、毎日又は、1日毎に面会に行き世話をし病状を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、医療に対する希望(終末期)を書面に記入して頂いている。 ホームでは、ターミナルはしていない。その事は家族にも話してあり入院され終末期を迎えられる方針になっている。	契約時に、状態が悪くなったとき事業所のできることを伝え、本人・家族と重度化した時や終末期を想定した内容を早期から話し合っている。また入院時には再度方針を話し合う機会を設けるなど、段階的に確認を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、訓練は全職員が受けている。 防災訓練時実践で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年数回行っている。 地震対応の訓練も数回行っている。消防署へ直接通報装置もスプリンクラーも設置されている。	食料、飲料水、毛布、タオルケット等の備蓄品が整頓保管されており、玄関には手作りの防災頭巾が用意されている。また訓練は年4～5回行われ、日常的に災害に対しての備えができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や身体状況に合わせた対応を職員全員が出来る様心掛けている。	利用者に合わせ、方言や言い方を使い分けている。馴染みの関係がなれ合いにならないように、言葉使いに気を付けることを管理者・主任やケアマネジャーが意識し、職員に注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、散歩、外食、クリーン作戦など、希望者だけで行く事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調、気分も考えて一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて散髪を職員がしている。 洋服も季節に応じ考え、アドバイスもする。 好みの服を家族にお願いする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日はその人の好きな物を作ります。 行事には手作り弁当を外で食べます。テーブルの準備など自主的にされ、外での食事を楽しめます。	季節のおやつである干し柿を利用者と一緒にむいて吊るし、干し上がりを待つ時間を楽しみにしている。また天気が良い日は庭に出て食事を摂り、普段とは違った楽しみの工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食記録して水分は1日1500ccを目安にして摂取できない人には色々工夫して摂取してもらいます。 糖分塩分には注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの指導を受けています。 入れ歯は毎日外しポリドント使用。口腔ケアはストロボを使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの運動実行中で1名のみ使用中。夜間のみの方1名。 トイレへ行く気持ちを大事にしています。	排泄パターンや場所を見極め、声かけや介助により衣類を濡らすことのないよう配慮している。居室で放尿を繰り返す利用者にポータブルトイレを準備し、すぐに処理し清潔にすることで放尿がなくなったことがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘2日以上の利用者、腸の動きの良くなる薬を処方し食事にも繊維を含む野菜を使う様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は決まっているが、本人の希望があれば入浴日以外の入浴もされる事がある。 わくわくの湯へ行く事もある。	決められた日以外にも入浴ができ、水虫がある方へは足浴を行うようにしている。体調不良により入浴できない時は清拭に切り替えている。また夏場は汗を流すために、シャワー浴ができるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯ですが、自室でイヤホンを使用し、テレビを観られる利用者もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示において服薬支援をしているが副作用、用法用量について申し送りノート、往診ノートに記入し職員全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来る事は出来るだけしてもらう様にしている。 洗濯物たたみ、自室の掃除、花の水替え、庭の掃除、水やりなど。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩します。 庭で体操したり、日光浴もします。 家族と外食されます。	天気の良い日は近所を散歩し、畑仕事での馴染みの方との会話を楽しみにしている。また近所の喫茶店の協力により、皆でお茶する機会を用意している。暖かい時期はクリーン作戦と名付けて散歩中にゴミ拾いを行い、近隣の美化に協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者はいませんが、職員と外食される時は、自分で支払いをされるように必要分を渡します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があれば使用できるようになっている。 妹さんと電話で話される利用者もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はいつも花を飾り、季節感を取り入れている。 テレビの前にはソファがありゆったりと座れます。 トイレの前にはスクリーンを立てて不快なく使用されています。	建物南側の壁面を腰窓に改修することで採光が充分に取れ、暖かく明るい雰囲気となっている。玄関すぐ横がトイレだが、つい立てを置き不快感を軽減する配慮をしている。居間と台所が一体的な作りで、料理中の音やにおいが心地良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関でボール投げ、テレビ体操、気の合った利用者同士されている。 マッサージ機を使ってコリを解す利用者もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真が飾ってあります。 季節の花を飾ってあります。	居室の壁には本人・家族の写真や絵が飾っており、好みの寝具の色合いやカーテンの色とともに一人ひとりの個性が出ている。布団干しを毎日行っており、寝心地よさや部屋に匂いがこもらないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考え、トイレ、風呂には手すりがついている。		